



PRISM
BioLab

「『PepMetrics®』（ペプメティクス）が切り開く、
あたらしい創薬の可能性」

ログミーFinance個人投資家向けIRセミナー ～バイオ業界特集～

2026年10月7日

株式会社PRISM BioLab

（証券コード：206A）

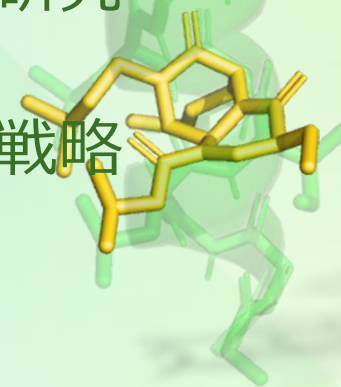
免責事項

本資料は、株式会社PRISM BioLab（以下「当社」といいます）の企業情報等の提供のみを目的として作成されたものであり、日本、米国その他の法域における当社の発行する株式その他の有価証券への勧誘を構成するものではありません。

当社は、本資料に含まれる情報または意見の公平性、正確性、完全性または正当性について、明示的または黙示的に表明または保証をするものではありませんので、これらに依拠することのないようお願いします。本資料の使用または内容等に関して生じたいかなる損害について、当社は一切の責任を負いません。また、本資料の内容は事前の通知なく大幅に変更されることがあります。

本資料には、当社の現在の見通し、予想、目標、計画などを含む将来に関する見通しが含まれています。このような将来に関する見通しは、当社が本資料の日付現在において入手可能な情報を踏まえた、当社の現在の前提及び見解に基づくものであり、経営陣による将来の業績の保証を表すものではありません。当社は、将来に関する見通しであることを示すために、全てではありませんが、多くの場合、「目的」、「予想」、「確信」、「継続」、「努力」、「想定」、「期待」、「予定」、「意図」、「する場合がある」、「計画」、「見込み」、「可能性」、「予測」、「リスク」、「努める」、「するべきである」、「目標」、「する予定である」等の語句およびこれと同様の意味を有する語句を用いています。また、戦略、計画または意図の議論においても将来に関する見通しが含まれます。これらの見通しは、将来の予想を議論し、戦略を特定し、経営成績または当社の財務状態の予測を含み、または当社の事業および業界、将来の事業戦略ならびに将来において当社が営業を行う環境に関する当社の現在における予想、想定、見積もりおよび予測に基づくその他の将来に関する情報を記載するものです。既知および未知のリスク、不確実性およびその他の要因により、当社の実際の業績は、将来に関する見通しに記載されまたは示唆されるものとは大幅に異なる可能性があります。当社は、これらの将来に関する見通しに記載される予想が正確なものであることを保証することはできません。当社は、本資料に記載される将来の見通しに関する記載を更新し公表する義務を負いません。

- 01 会社紹介・ビジネスモデル
- 02 P R I S Mの基盤技術「PepMetrics®テクノロジー」
- 03 進捗する臨床パイプライン
- 04 グローバル製薬企業との共同研究
- 05 P P I 創薬を加速する2つの戦略



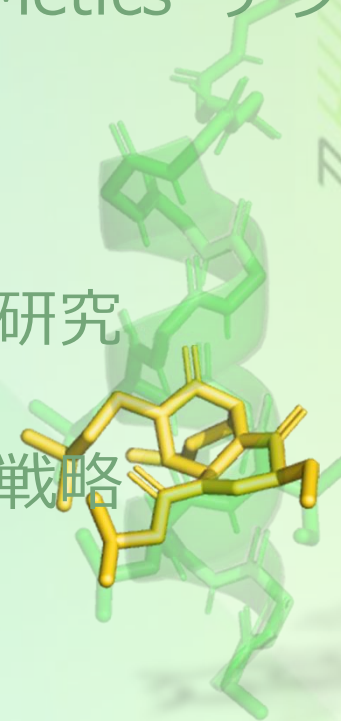
01 会社紹介・ビジネスモデル

02 P R I S Mの基盤技術「PepMetrics®テクノロジー」

03 進捗する臨床パイプライン

04 グローバル製薬企業との共同研究

05 P P I 創薬を加速する2つの戦略



Purpose

PepMetrics®技術を活用して、だれもが希望に満ちた生活をするための新薬を創出します。

Mission

私たちは、自由な発想と積み重ねた技術で「あたらしい創薬」に挑戦し続けます。

Vision

「あたらしい研究」にチャレンジできる舞台に、
多様な才能が集い、
世界の新薬創出をリードします。

会社概要

(2026年 3月31日現在)

会社名

株式会社PRISM BioLab (PRISM BioLab Co., Ltd.)

代表

竹原 大 (代表取締役)

事業内容

医薬品及び医薬部外品の研究開発及び開発製品の販売
バイオテクノロジーの研究開発及び開発製品の販売

創業

2006年11月

資本金

17億3,975万円

従業員数

40名

所在地

本社・研究所

神奈川県藤沢市村岡東二丁目26番地の1
湘南アイパーク

東京オフィス

東京都中央区日本橋本町三丁目11番5号
日本橋ライフサイエンスビルディング2

沿革：PRISM BioLabの軌跡



7月
東京証券取引所
グロース市場に
新規上場

2024

1月
Eli Lilly及び光通信機器・光部品
メーカーsantecより資金調達



4月
小野薬品工業と共同研究および
ライセンス契約締結

2023

5月
大原薬品工業とのPRI-724に
関するライセンス契約に基づ
くマイルストーン達成



11月 **Eli Lilly**
米国製薬大手Eli Lillyと
ライセンス及び共同研究契約締結

2021



6月 **SERVIER**
フランスの製薬大手SERVIERと創薬に関す
る業務提携契約締結



9月
DCIパートナーズ、Newton BioCapital
Partnersをリードインベスターとする資金調達



10月
イーザイより資金調達



11月
イーザイと共同で創製した
CBP/β-catenin相互作用阻害剤E7386がPOC達成



12月 **Roche** **Genentech**
A Member of the Roche Group
製薬大手RocheグループのRocheとGenentechと
研究及びライセンス契約締結

2022



4月
大原薬品工業にライセンス
したPRI-724がPOC達成

2020



5月 **Boehringer Ingelheim**
Boehringer Ingelheimと複数の
創薬ターゲットに関する研究及び
ライセンス契約締結



10月 **MERCK**
Merckと複数の創薬ターゲットに
関する研究及びライセンス契約締結

2017



3月
製薬会社の創薬ターゲットに対して
ヒット化合物を創出する創薬探索事業を開始

2012



4月
創薬探索事業展開のため当社
(株)PRISM BioLab)を
新設分割にて設立

2006



11月
前身のPRISM BioLab (株)
設立

2018



5月 **OHARA**
大原薬品工業とPRI-724の
ガン以外の分野における
ライセンス契約締結

2013



7月
イーザイとの共同研究でE7386※を
創製し、当社持ち分をライセンス

2011



4月
イーザイとPRI-724のガン分野における
ライセンス契約締結



PRISM
BioLab

※：E7386はイーザイと共同創製した化合物

PP I 創薬を推進するビジネスモデル

PP I 創薬技術を基にした、自社開発事業と共同開発事業のハイブリッドモデル

自社開発事業

自社で創薬標的を選定し臨床化合物を開発してライセンス



標的探索 → ヒット化合物探索 → 化合物最適化 → 非臨床試験 → 臨床試験 → 製造・販売

研究

ライセンス
契約

契約
一時金

開発マイルストーン収入

販売マイルストーン収入
ロイヤリティ収入

開発

共同開発事業

パートナー（製薬会社）の創薬標的に対し、PepMetricsを活用して臨床化合物を探索してライセンス



標的探索 → ヒット化合物探索 → 化合物最適化 → 非臨床試験 → 臨床試験 → 製造・販売

共同研究

契約
一時金

共同
研究費

共同
研究費

ライセンス
契約

開発マイルストーン
収入

開発マイルストーン収入

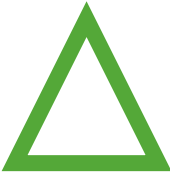
販売マイルストーン収入
ロイヤリティ収入

共同研究

開発

PRISM BioLabの各事業の特徴

ハイブリッドモデルにより安定的かつ大きなリターンを目指す

	開発コスト	契約機会	収益タイミング	収益規模
自社開発事業 先行投資を伴うハイリスク、 ハイリターンなビジネスモデル	 ライセンスアウトまでの 資金は当社で負担、 開発リスクも伴う	 リソース（資金・人）によって 並行するプログラム数が 限られる	 ライセンスアウトまでは 収益化は見込めない	 ライセンスアウト後の 1件の契約総額は 大規模になる可能性
共同開発事業 安定的で早期収益化が 可能なビジネスモデル	 当社の資金やリスクは ほとんどかからない	 パートナーの資金で 多くのプログラムを並行して 進めることが可能	 当初から収益化が見込める	 自社開発事業と 比較すると 1件の契約総額は小規模

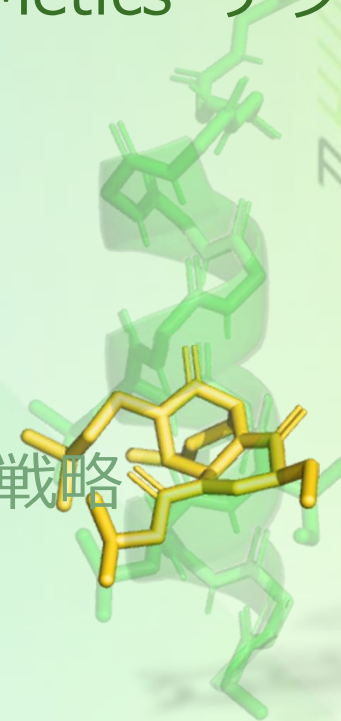
01 会社紹介・ビジネスモデル

02 P R I S Mの基盤技術「PepMetrics®テクノロジー」

03 進捗する臨床パイプライン

04 グローバル企業との共同研究

05 P P I 創薬を加速する2つの戦略



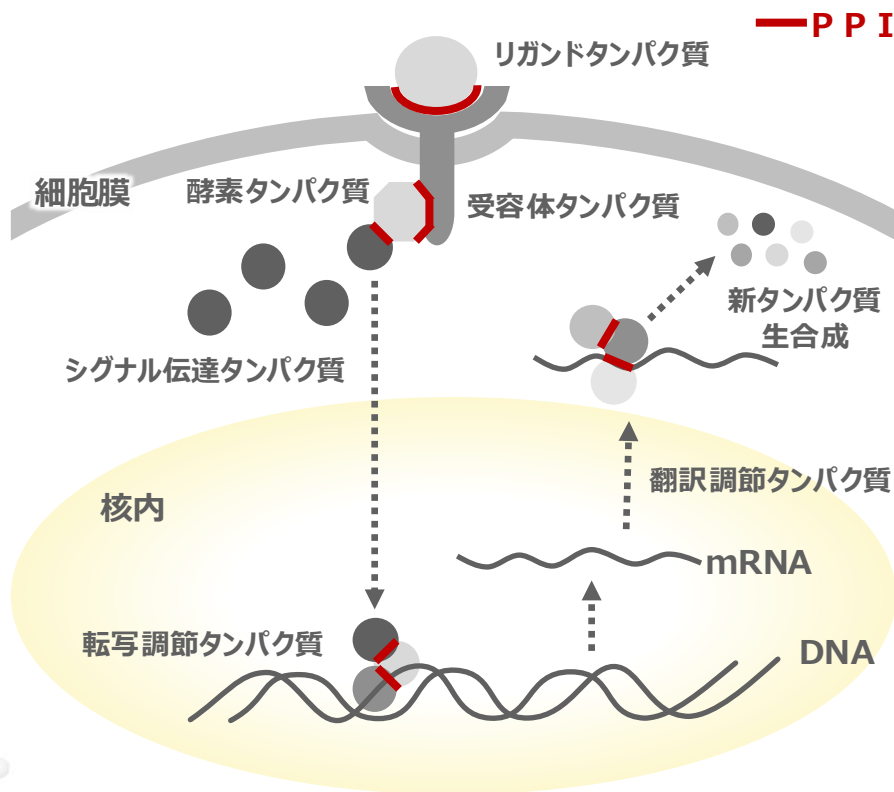
PepMetricsがあたらしい創薬領域を創る可能性



タンパク質間相互作用（以下「P P I」※）は有望な創薬標的

P P I は人体の発生、維持、疾患に深く関与し、重要な創薬標的となり得る

P P I は生命にとって重要な調節を担う



体内では健康を維持するため
様々なシグナル伝達のパスウェイに
P P I が関与している

P P I は重要な創薬標的となり得る

P P I に関するタンパク質（一例）	関連タンパク異常	関連する疾患の例
リガンドタンパク質	インスリン 欠乏	糖尿病
	成長ホルモン 過剰	先端巨大症
受容体タンパク質	NTRK1 機能異常	疼痛
	LDL受容体 機能異常	動脈硬化
酵素タンパク質・シグナル伝達タンパク質	リパーゼ 機能異常	高コレステロール血症
	APC 機能異常	大腸がん
転写調節タンパク質	IRF5 増加	全身性エリテマトーデス
	Myc 増加	神経芽腫
翻訳調節タンパク質	eIF4E 増加	難治性乳がん
	FMRP 機能異常	発達障害

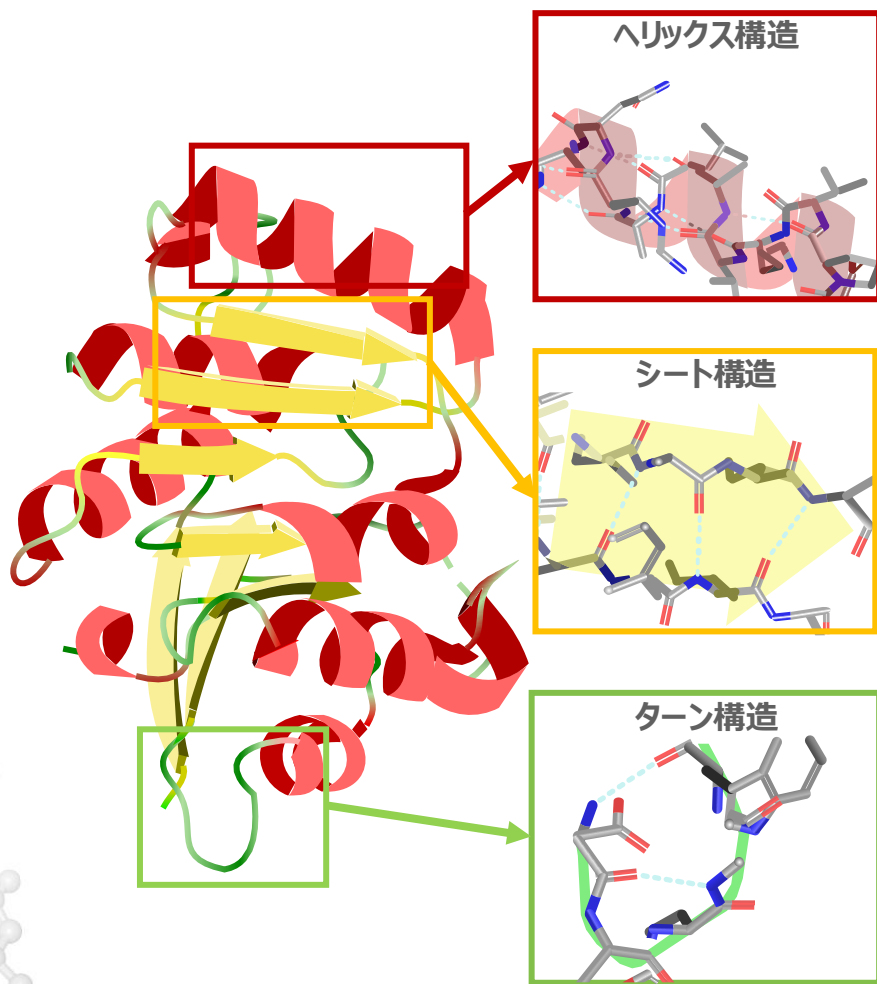
※： インスリン、成長ホルモン、NTRK1、LDL受容体、リパーゼ、APC、IRF5、Myc、eIF4E、FMRP： これらすべて体内にあるタンパク質の一種

P P I を創薬標的にする新規薬剤を創出できれば
多くの疾患領域に新たな治療アプローチを
提供できる可能性

P P I で重要な役割を担うヘリックス構造

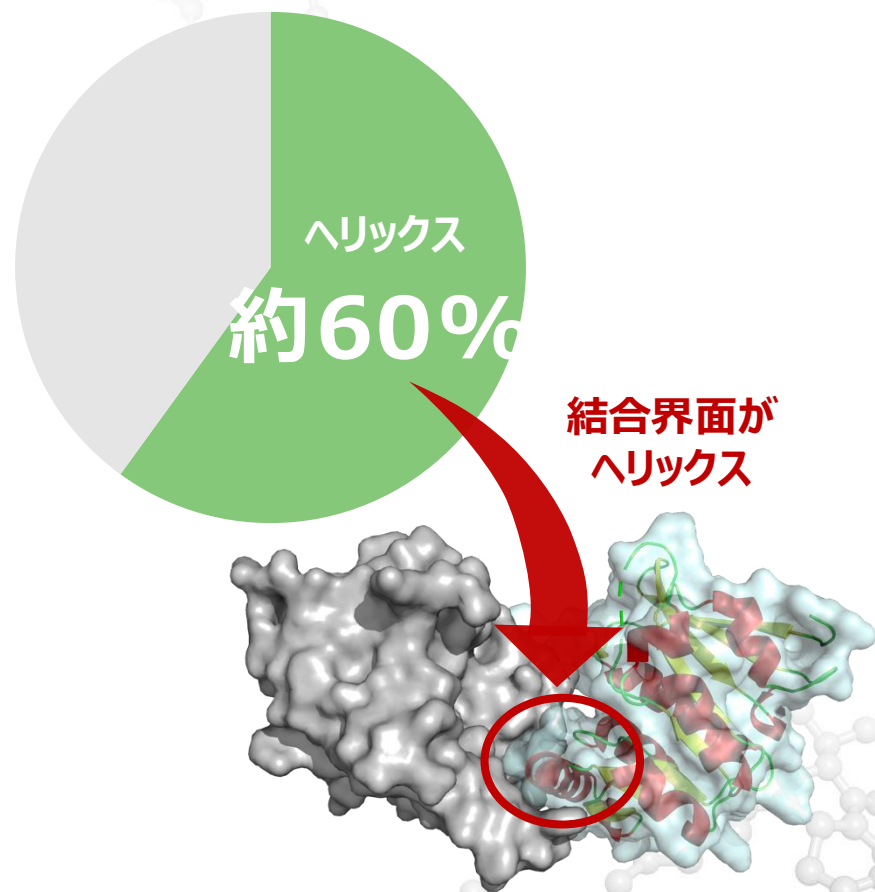
P P I においてヘリックス構造は重要な役割を担っている

タンパク質は3種類の二次構造により構成



ヘリックスはP P I の結合部位に多くみられる

P P I への結合関与割合※1

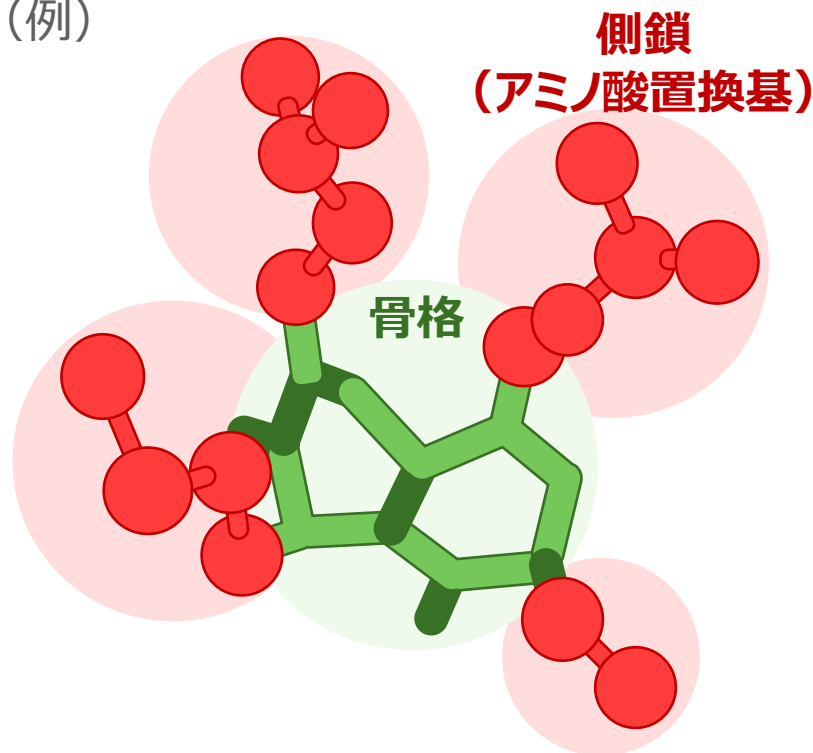


当社のプラットフォーム基盤技術「PepMetricsテクノロジー※」

PepMetricsは初めてヘリックス構造の模倣に成功した新たな P P I 制御モダリティ

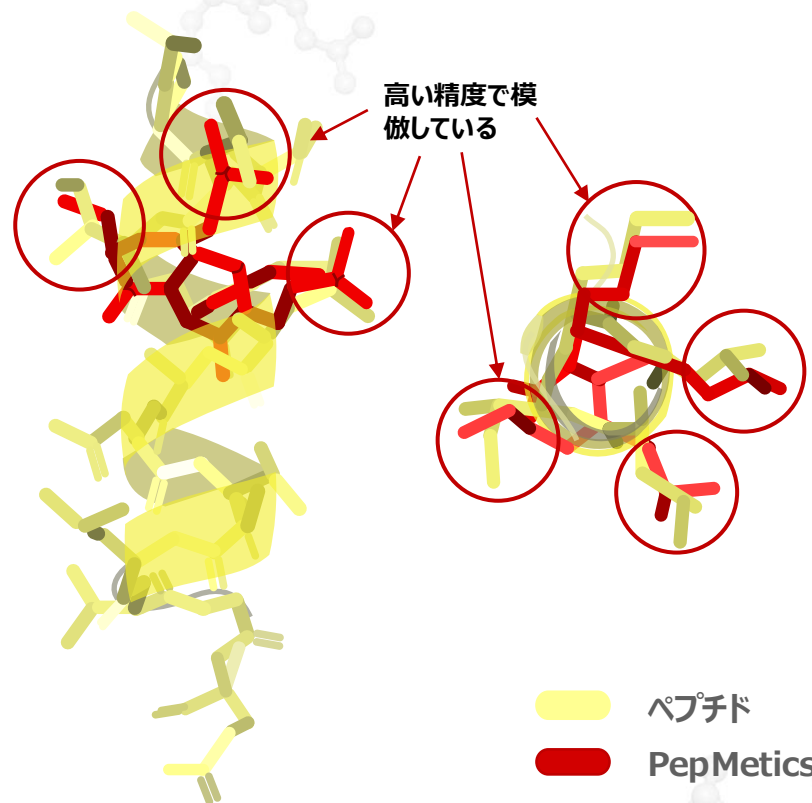
PepMetrics化合物の構造

(例)



PepMetrics化合物は
構造的にヘリックス構造を模倣する「骨格」と
様々な組み合わせられる「側鎖」で構成

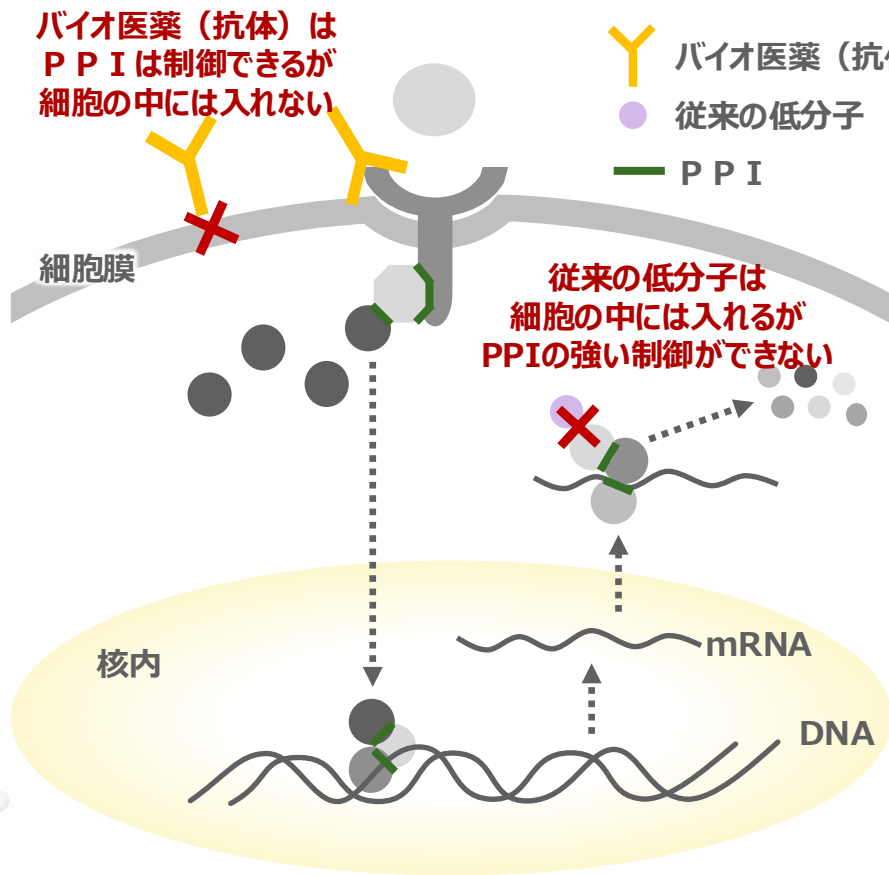
PepMetricsはヘリックス構造を高い精度で模倣



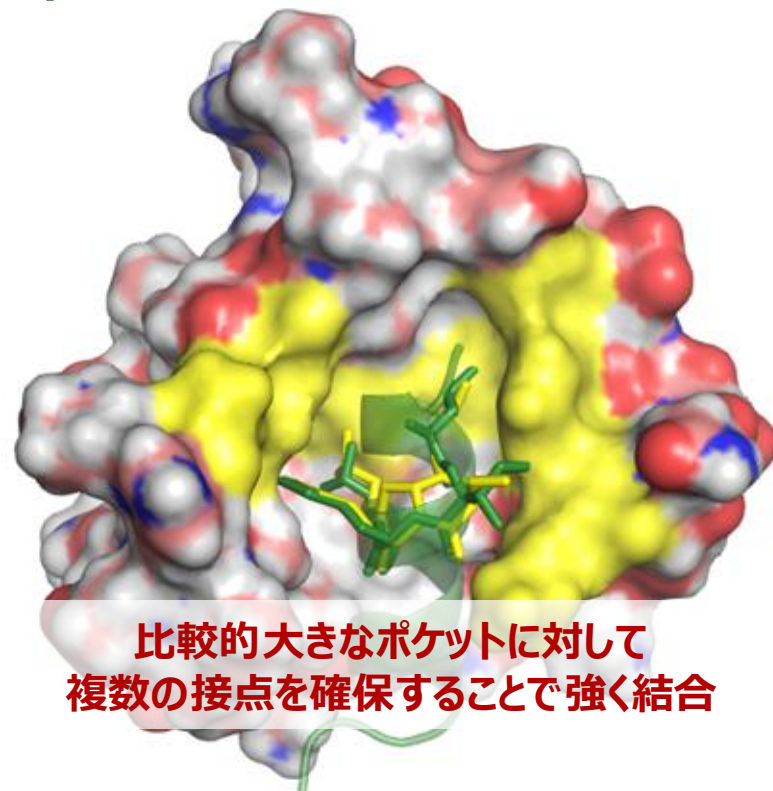
安定構造の骨格により
ヘリックス構造を高い精度で
模倣することが可能

「細胞内」 P P I をターゲットとする創薬の課題

細胞内 P P I をターゲットとする創薬では、従来の低分子では十分な阻害作用を発揮できず、バイオ医薬（抗体）では作用部位に到達できないことが課題



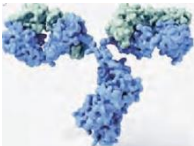
PepMetrics



PepMetricsは従来の低分子と同様に細胞の中に入り、かつ従来の低分子以上に P P I を阻害できる

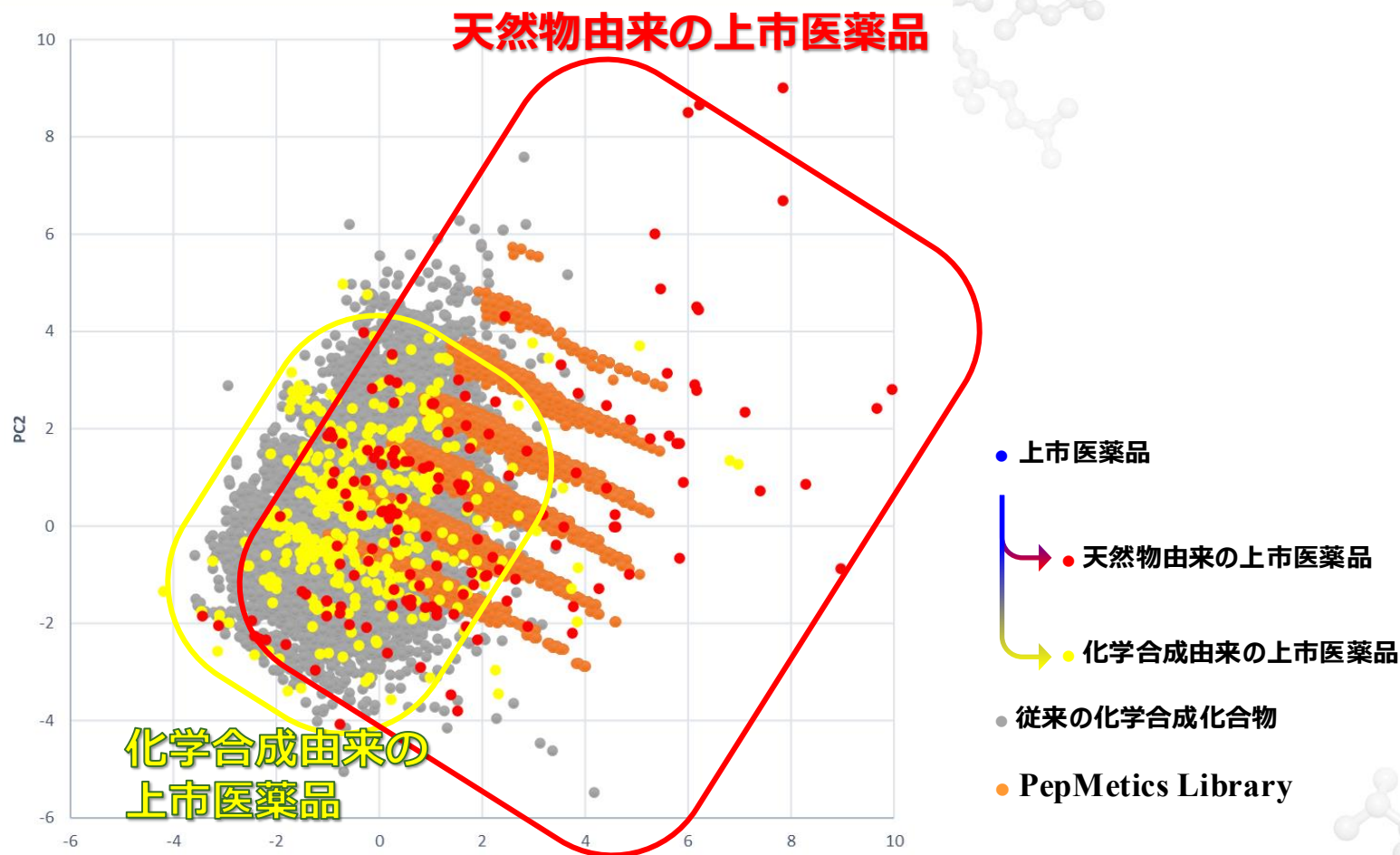
細胞内 P P I に対する他モダリティとの比較優位性

他のモダリティと比較しても「細胞内 P P I の制御」というコンセプトにおいて、PepMetrics®は画期的な創薬基盤

	細胞内移行性	P P I	選択性	安定性	剤形
 PepMetrics	細胞内移行 可能	P P I 制御可能	選択性が高い	生体内酵素で 分解されにくい	経口剤化 可能
 抗体	細胞内移行 不可	P P I 制御可能	選択性が高い	生体内で 極めて安定	経口剤化 不可
 ペプチド	細胞内移行 限定的	P P I 制御可能	選択性が高い	生体内で 分解される	経口剤化 不可
 従来の低分子	細胞内移行 可能	P P I 制御 不可	選択性が低い (低選択性に起因する 毒性懸念あり)	生体内酵素で 分解されにくい	経口剤化 可能

天然物に類似する構造を有するPepMetrics®

化学合成では創薬が難しいとされる天然物由来の医薬品に重なる領域をPepMetrics®はカバー



PepMetricsは天然物に近い特徴を有しており、
従来の合成化合物では創薬不可能とされてきた標的に対して多くのヒット化合物を創出

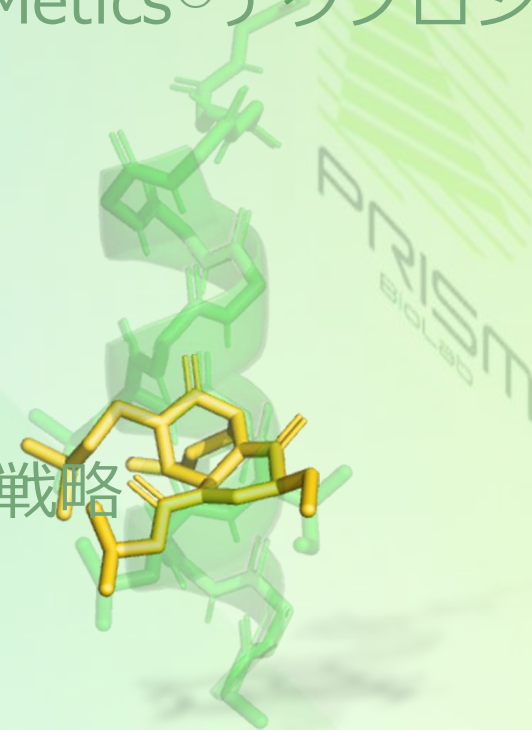
01 会社紹介・ビジネスモデル

02 P R I S Mの基盤技術「PepMetrics®テクノロジー」

03 進捗する臨床パイプライン

04 グローバル企業との共同研究

05 P P I 創薬を加速する2つの戦略



PP I 創薬を推進するビジネスモデル

PP I 創薬技術を基にした、自社開発事業と共同開発事業のハイブリッドモデル

自社開発事業

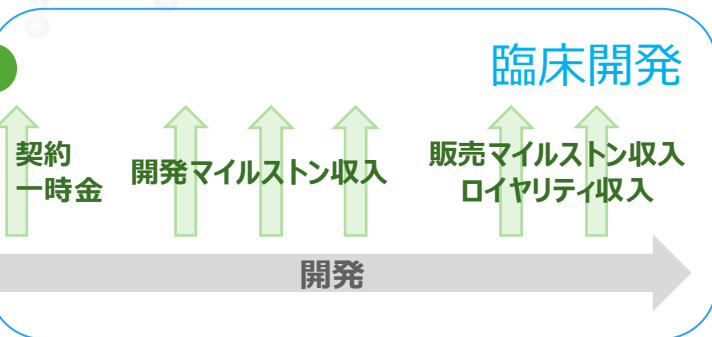
自社で創薬標的を選定し臨床化合物を開発してライセンス



標的探索 → ヒット化合物探索 → 化合物最適化 → 非臨床試験 → 臨床試験 → 製造・販売

研究

ライセンス
契約



共同開発事業

パートナー（製薬会社）の創薬標的に対し、PepMetricsを活用して臨床化合物を探索してライセンス



標的探索 → ヒット化合物探索 → 化合物最適化 → 非臨床試験 → 臨床試験 → 製造・販売

共同研究

契約
一時金

共同
研究費

共同
研究費

ライセンス
契約

開発マイルストーン
収入

開発マイルストーン収入

開発マイルストーン収入
販売マイルストーン収入
ロイヤリティ収入

共同研究

開発

自社開発事業

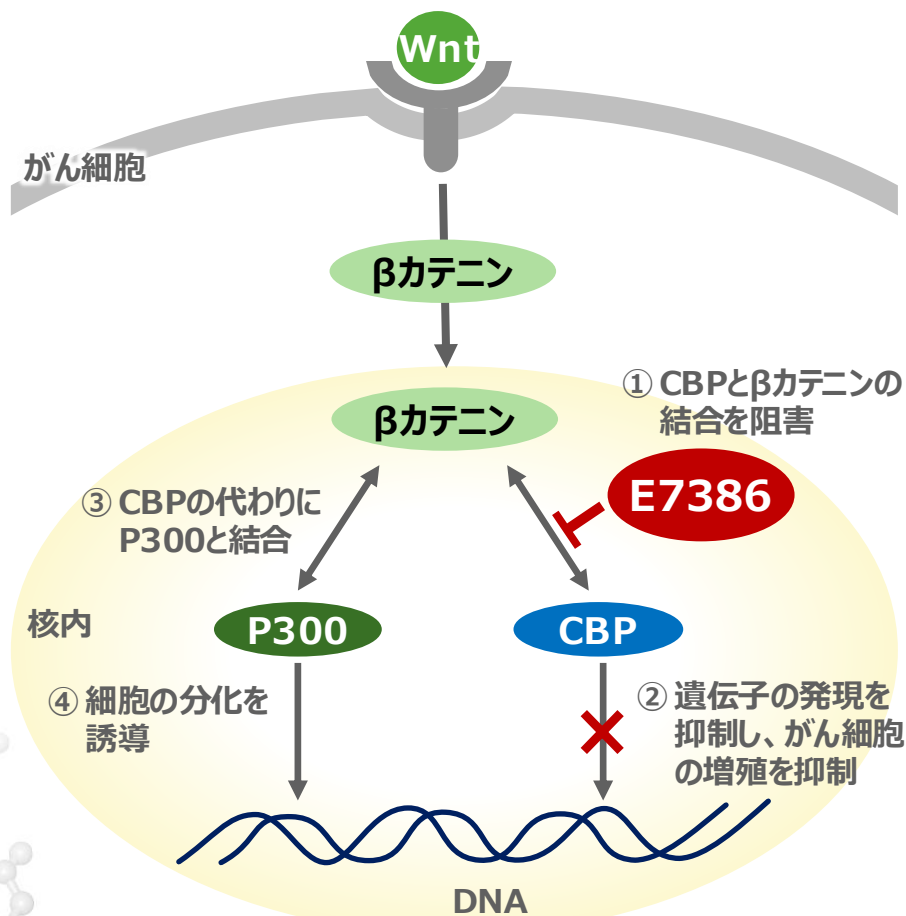
製薬企業 2 社に導出し、第Ⅱ相臨床試験を進めている

提携先	開発品コード	契約締結年月	経済条件	契約内容及び進捗状況
	E7386※1	2011年4月	- 一時金、開発、販売等に対するマイルストン及び研究費を含めて250億円以上 - ロイヤリティ：非開示	- 対象製品に対するライセンス契約 - 共同で創製した中分子化合物であるCREB-binding protein (CBP) /β-catenin (β-カテニン) 相互作用阻害剤 E7386 について、2021年11月に臨床における POCを達成 - エーザイ創製の経口チロシキナーゼ阻害剤「レンビマ®」との併用の臨床試験では、2025年10月にエーザイが欧州臨床腫瘍学会 (ESMO) で発表した後期第Ⅰ相パートの最新の中間解析結果において、子宮内膜がんの患者で高い客観的奏効率と有望な予備的抗腫瘍活性が示された。 - 管理可能な安全性プロファイルとともに、36.7%の全奏効率を示し、以前にレンビマ®投与歴の無い患者においては57.1%の全奏効率であった。 - エーザイは、子宮内膜がんの患者を対象とした第Ⅱ相パートを進めており、2026年度中 (～2027年3月) にトップラインデータを取得し、「レンビマ®」との併用による子宮内膜がんに係る適応に関して、2031年3月までの承認取得をめざすと発表
	PRI-724 (OP-724※2)	2018年5月	非開示	- 当社の保有する特許権及び特許を受ける権利について、日本国内の専用実施権を許諾する契約 2023年7月より、CBP/β-カテニン阻害薬OP-724のC型・B型肝炎ウイルスまたはMASH※3に起因する非代償性肝硬変患者を対象とした第Ⅱ相臨床試験を開始 - MASHを対象とするコホートでは患者の登録を完了

自社開発事業：E7386※1

E7386は第Ib相試験において腫瘍縮小効果を示した

E7386の作用機序



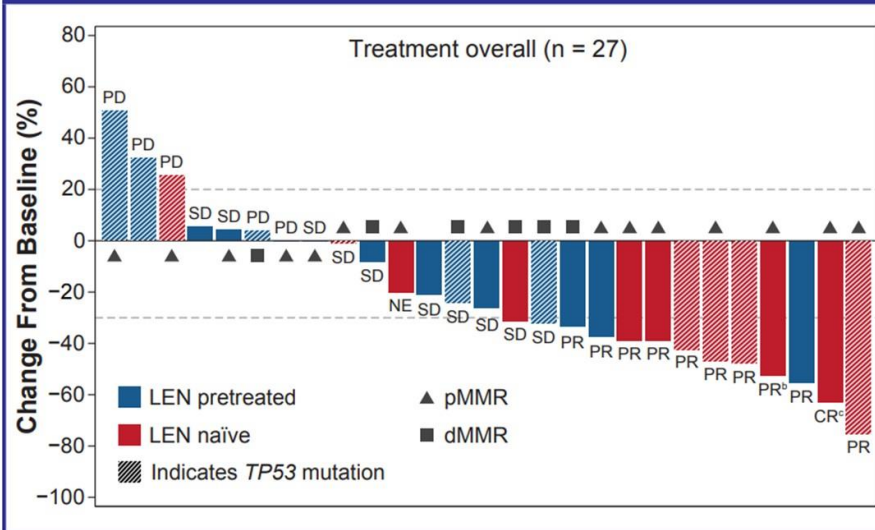
※1：E7386はエーザイと共同創製した化合物

第Ib相試験の臨床試験データ※2

＜欧州臨床腫瘍学会（ESMO2025）発表概要＞ ※用量拡大パート
CBP/β-catenin相互作用阻害剤E7386は、レンビマ®※3との併用療法による進行子宮内膜がんを対象とした第Ib相試験において効果を示した。
(NCT04008797)

- ✓ 計画されていた30名の患者の組み入れが完了し、管理可能な安全性プロファイルが示された。5名の患者への投与は現在進行中である。
- ✓ データカットオフ2025年6月4日の時点において、RECIST評価基準を用いて36.7%(11人)の全奏効率(腫瘍の大きさが30%以上縮小)を示した。うち、以前にレンビマ®投与歴の無い患者においては57.1%の全奏効率であった。

Figure 3. Changes in Sums of Diameters of Target Lesions^a



※2：CR, complete response; dMMR, mismatch repair deficient; MMR, mismatch repair; NE, not evaluable; PD, progressive disease; pMMR, mismatch repair proficient; PR, partial response; SD, stable disease; RECIST, response evaluation criteria in solid tumors.

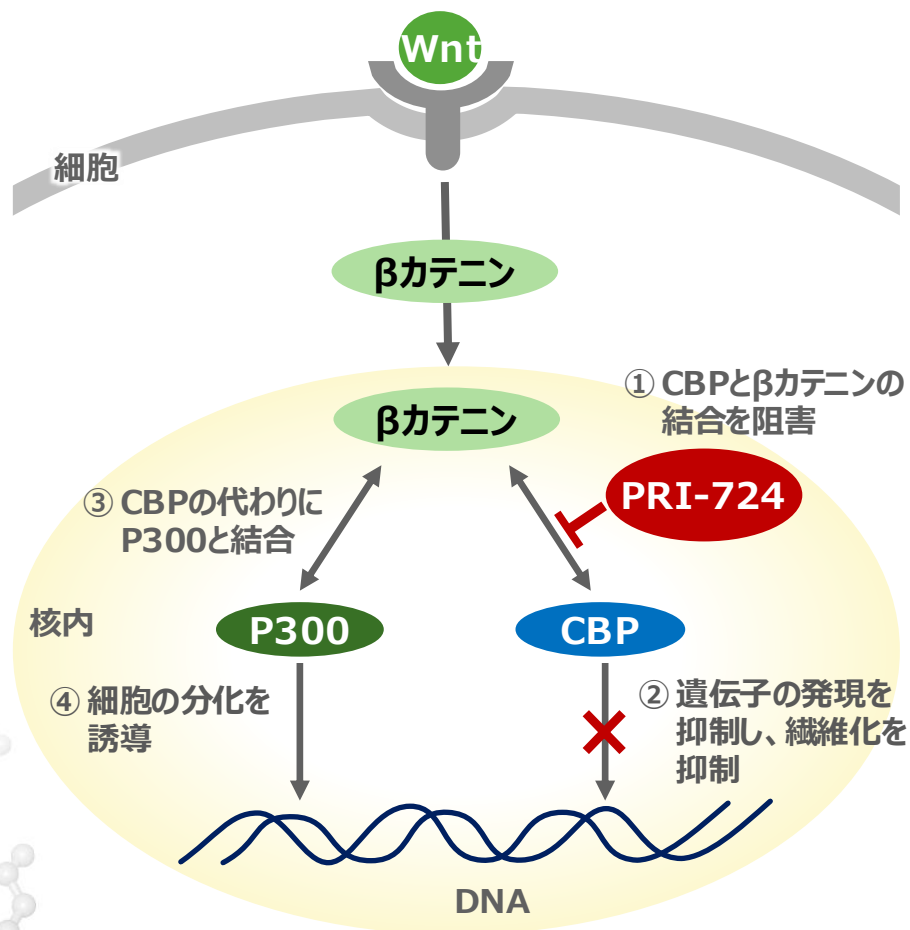
出所：European Society for Medical Oncology：(ESMO) 年次総会 (ESMO Congress 2025) ポスター発表 (2025年10月17日～10月22日)

※3：本剤は、エーザイが創製し、エーザイと Merck & Co., Inc., Rahway, NJ, USA が提携契約のもと、共同開発および共同商業化を行っています

自社開発事業：PRI-724

PRI-724は第I/IIa相試験において肝硬変患者の肝硬度および肝機能を改善した（ヒトPOC達成）

PRI-724の作用機序

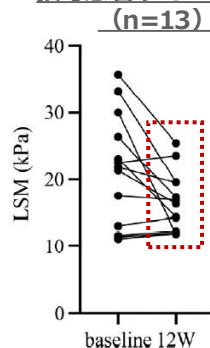


第I/IIa相試験の臨床試験データ

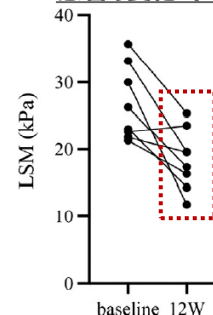
CBP/β-カテンン阻害薬PRI-724は、C型またはB型肝炎ウイルスに起因する肝硬変患者を対象とした第I/IIa相試験において、肝硬度および肝機能を改善した（NCT03620474）。

✓ PRI-724投与による肝硬度（LSM）：有意な改善が認められた。

投与患者のLSMの変化
(n=13)

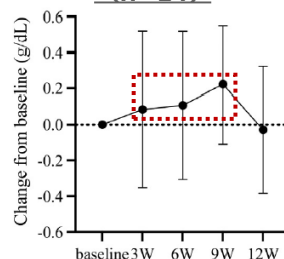


うち、LSM20kPa以上（重度）の患者の変化 (n=8)

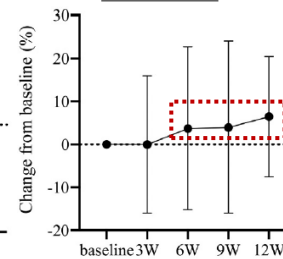


✓ PRI-724投与による肝機能：血清アルブミン値、総ビリルビン値及びプロトロンビン時間において、ベースラインに対する改善が認められた。

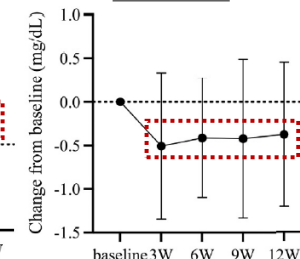
血清アルブミン値
(n=14)



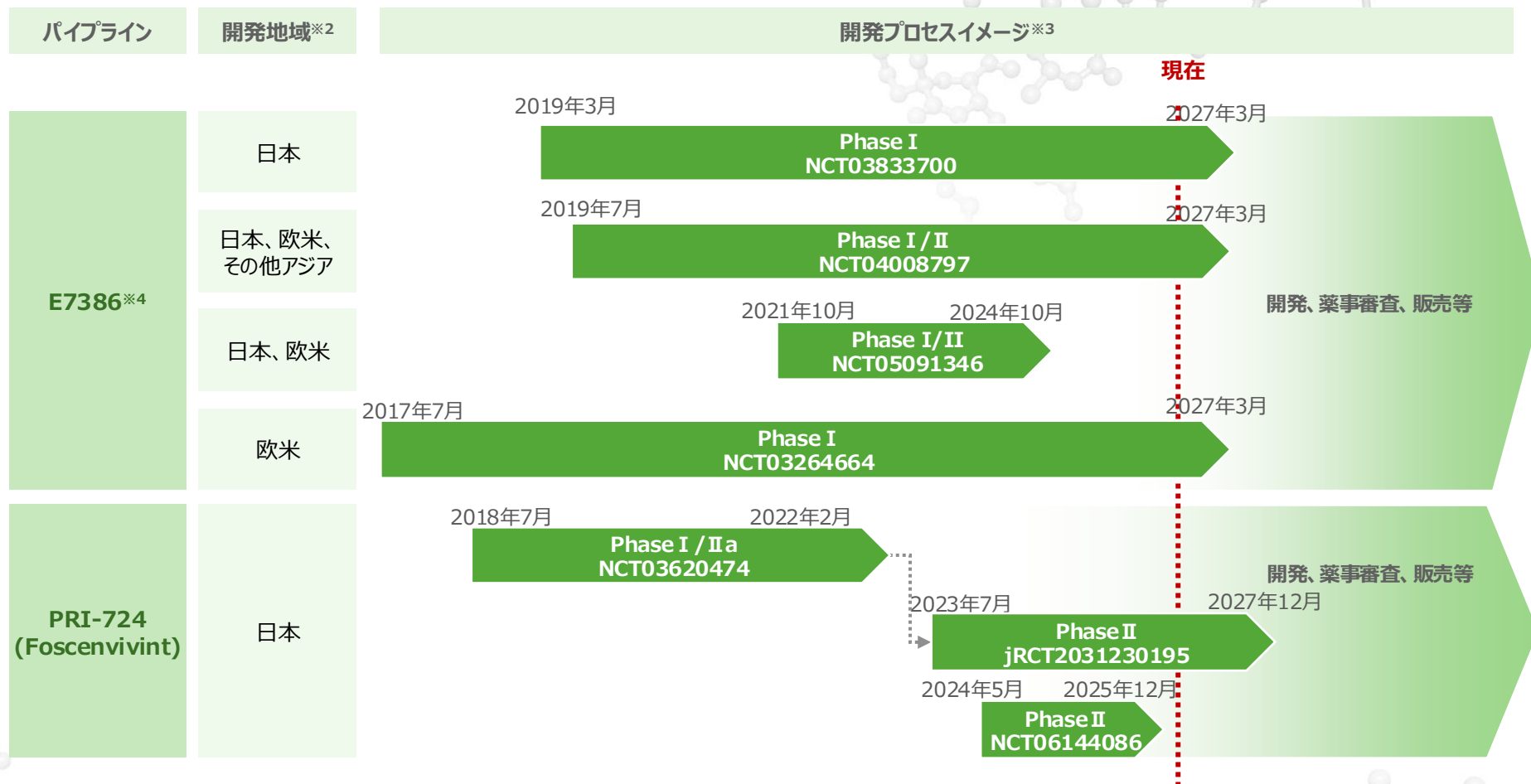
プロトロンビン時間
(n=14)



総ビリルビン値
(n=14)



臨床開発の進捗※1



※1：開発、販売地域はアライアンス先の開発・販売戦略毎に異なります。上記の情報には、現在入手可能な情報に基づく当社の判断による、将来に関する記述が含まれています。そのため、上記の情報は様々なリスクや不確実性に左右され、実際の開発状況はこれらの見通しとは大きく異なる可能性があります。

導出された製品候補については、パートナーが今後の開発・商業化の第一義的な責任を負います。

※2：開発地域は当該臨床試験の実施国が属する地域を記載しております。情報は、2026年3月31日時点でのjRCT又はClinicalTrials.govに基づくものであり、変更になる可能性があります。

※3：開発プロセスイメージにおける臨床試験期間は、2026年3月31日時点でのjRCT又はClinicalTrials.govに基づくものであり、変更になる可能性があります。また、臨床試験期間は、当該臨床試験の開始日（予定日）・終了日（予定日）を参照しております。開始日について、症例登録開始日（予定日）、被験者登録組入日の開示がある場合は当該時期を開始日として参照しております。



PRISM
BioLab

※4：E7386はエーザイと共同創製した化合物
出所：jRCT、ClinicalTrials.gov

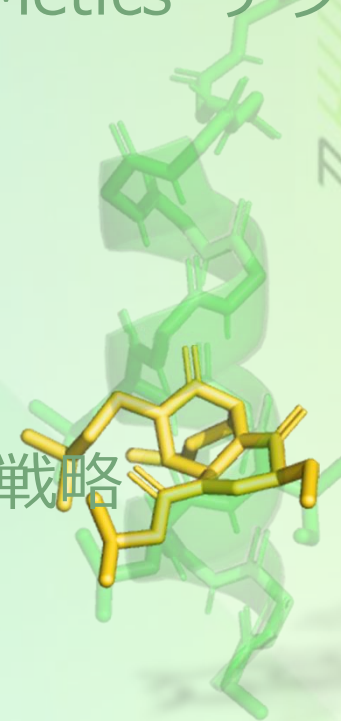
01 会社紹介・ビジネスモデル

02 P R I S Mの基盤技術「PepMetrics®テクノロジー」

03 進捗する臨床パイプライン

04 グローバル企業との共同研究

05 P P I 創薬を加速する2つの戦略



PP I 創薬を推進するビジネスモデル

PP I 創薬技術を基にした、自社開発事業と共同開発事業のハイブリッドモデル

自社開発事業

自社で創薬標的を選定し臨床化合物を開発してライセンス



標的探索 → ヒット化合物探索 → 化合物最適化 → 非臨床試験 → 臨床試験 → 製造・販売

研究

ライセンス
契約

契約
一時金

開発マイルストーン収入

販売マイルストーン収入
ロイヤリティ収入

開発

共同開発事業

パートナー（製薬会社）の創薬標的に対し、PepMetricsを活用して臨床化合物を探索してライセンス



標的探索 → ヒット化合物探索 → 化合物最適化 → 非臨床試験 → 臨床試験 → 製造・販売

創薬共同研究

共同研究

契約
一時金

共同
研究費

共同
研究費

ライセンス
契約

開発マイルストーン
収入

開発マイルストーン収入

販売マイルストーン収入
ロイヤリティ収入

共同研究

開発

共同開発事業：創薬共同研究

グローバル企業4社と共同研究及びライセンス契約を締結

提携先	契約締結年月	経済条件	契約内容及び進捗状況
	2024年4月	・ 非開示	- 小野薬品工業のガン領域の創薬標的に対する開発候補化合物を共同開発。 - 小野薬品工業は臨床開発ならびに商業化の権利を得る。
  A Member of the Roche Group	2021年12月	・ 非開示	- 三社間契約。Roche及びGenentechの創薬標的に対するヒット化合物のスクリーニングのためにPepMeticsライブラリーを提供。 - ヒットした化合物に対してライセンス許諾。
	2020年10月	・ 非開示	- Merckの創薬標的に対するヒット化合物のスクリーニングのためにPepMeticsライブラリーを提供。 - ヒットした化合物に対してライセンス許諾。

※：LES LABORATOIRES SERVIERとは2025年10月に共同研究契約を終了

※：Boehringer Ingelheim International GmbHとは2026年5月に研究及びライセンス契約を終了

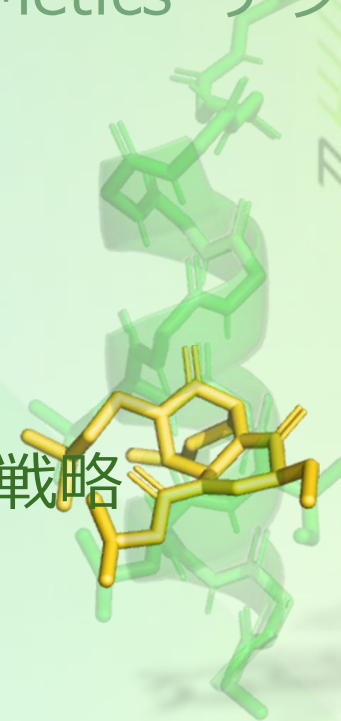
01 会社紹介・ビジネスモデル

02 P R I S Mの基盤技術「PepMetrics®テクノロジー」

03 進捗する臨床パイプライン

04 グローバル企業との共同研究

05 P P I 創薬を加速する2つの戦略



PP I 創薬を加速する2つの戦略

ヒット創出 プログラム

年間10のHTSを実施

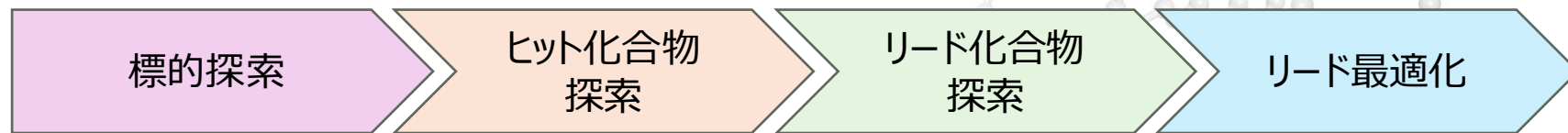
ヒット化合物を基に
共同研究を進める

創薬バイオテックと 共同開発

シナジーのある技術で新たな
標的とHitを創出

PP I 創薬に有効な技術
をPRISM中心に集約

ヒット創出プログラムの進捗



「ヒット創出プログラム」

PepMetrics®ライブラリーを用いたハイスループットスクリーニング（HTS）により、創薬の起点となるヒット化合物を次々と創出する「創薬エンジン」



**自社開発パイプラインの拡充
ライセンス機会の創出**

■ 目標

年間10プログラム規模で
HTSを実施



■ 実績（2026年8月14日時点）

- ・ 2025年度下半期：2プログラム開始
- ・ 2026年度上半期：10プログラム開始
- ・ 5つのヒット化合物を取得
（ヒット創出率：約71%※）

あらたな創薬コンセプトで標的を選定

従来のP P I創薬に加え、既に確立された大きな市場であらたな市場を作り出す。



PepMetrics®による「あたらしい創薬標的群」への展開

PepMetrics®は、新規P P I市場を開拓する技術であると同時に、既存大市場で未解決課題を解くプラットフォームでもある

PRISMの基本戦略 PepMetrics®によるP P I制御

- 「創薬困難」とされたP P Iを標的
- 将来的市場ポテンシャルは極めて大きい

【短期的な課題】

- 新しい創薬分野で難易度が高い
- 開発に時間を要する
- パートナー企業も慎重



あらたな展開 巨大市場を持つ既存創薬標的群へ展開

例：キナーゼ / 膜タンパク質

PepMetrics®を用いて
従来法では解決困難だった課題を解決

→ 新たな市場・治療機会の創出

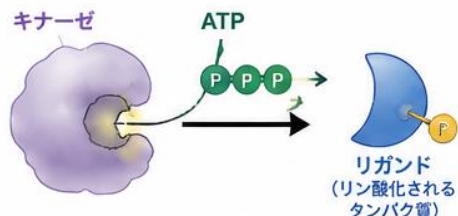
	P P I	キナーゼ	膜タンパク質
体内の種類	タンパク質：20,000種類 PPI：650,000種類※1	> 500種類 (Including Pseudo)	約5,000種類 (ヒトタンパク質の約25%)
対象医薬品数	1※2	72※3 (2022年11月時点)	約700以上※5 (既承認薬の約50～60%が 膜タンパク質標的)
現在の市場規模	16億米ドル※2 (2023年)	476億米ドル※4 (2020年)	数千億米ドル規模※5 (創薬ターゲットとして最大領域)

あらたな展開：P P I を標的にする次世代キナーゼ阻害剤

1 キナーゼ阻害剤は巨大市場を形成。しかし未解決課題が存在

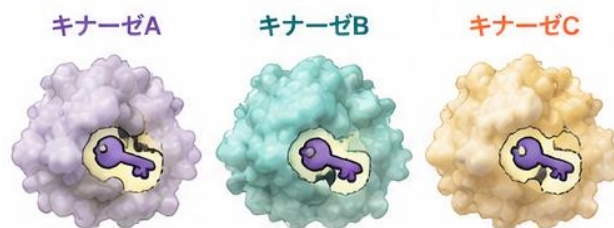
キナーゼ阻害剤は確立された創薬分野で、70品目以上が承認。2030年に約8兆円市場※と予測

キナーゼとは



ATPが結合し、リン酸(P)を特定のタンパク質(リガンド)に転移(リン酸化)し、その動きをコントロールする

多くのキナーゼ阻害剤は「同じ鍵穴(ATPポケット)」を狙う



約400種類以上のキナーゼがよく似た「鍵穴(ATPポケット)」を持っている

従来のATPポケットを狙う創薬の課題

課題①：選択性の低さ(副作用の原因)
鍵穴の形が非常によく似ているため、狙ったキナーゼ以外にも薬が結合してしまう。



課題②：薬剤耐性の発生
ATPポケットの一部に変異が起こると、薬が結合できなくなり、効果が失われる。



2 PRISMは「キナーゼを動かすスイッチ部分」を狙う

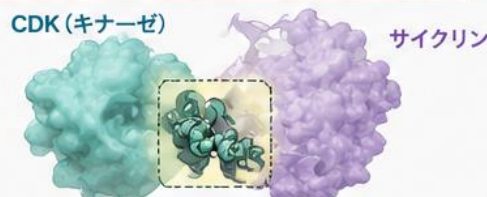
CDK：サイクリン依存性キナーゼ サイクリンが結合することで役割を果たすキナーゼ

従来の阻害剤：ATPポケットを阻害



多くのキナーゼで似ているため、選択性や耐性の課題がある

PRISMのアプローチ：スイッチ部分を阻害



CDKとサイクリンの結合インターフェース(キナーゼを活性化する「スイッチ部分」)を阻害

本アプローチのメリット

- 高い選択性
CDK-サイクリンの結合部位はユニークで類似性が低く、選択性を出しやすい
- 薬剤耐性の回避が期待できる
ATPポケットの変異の影響を受けにくく、耐性が起こりにくい可能性
- 新しい作用機序
既存薬とは異なるメカニズムで、新たな治療選択肢を提供

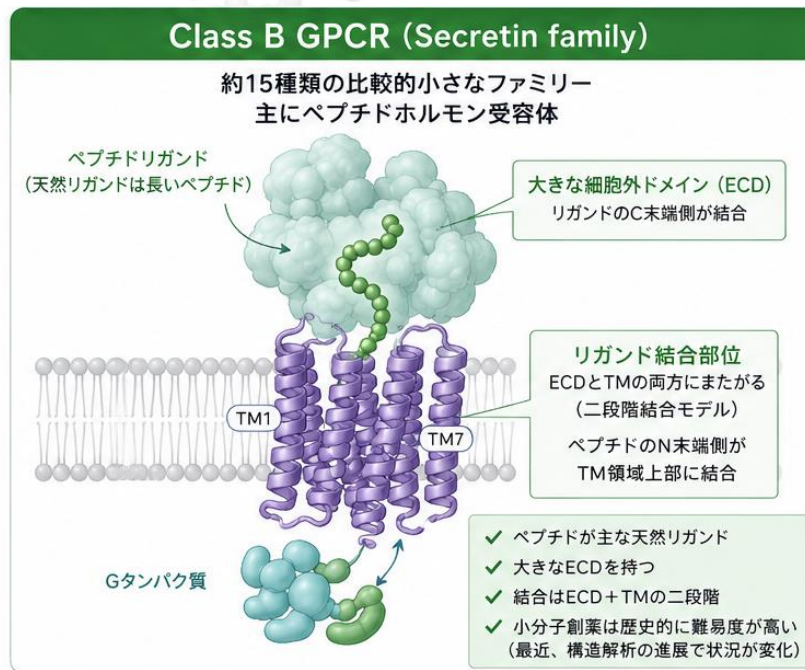
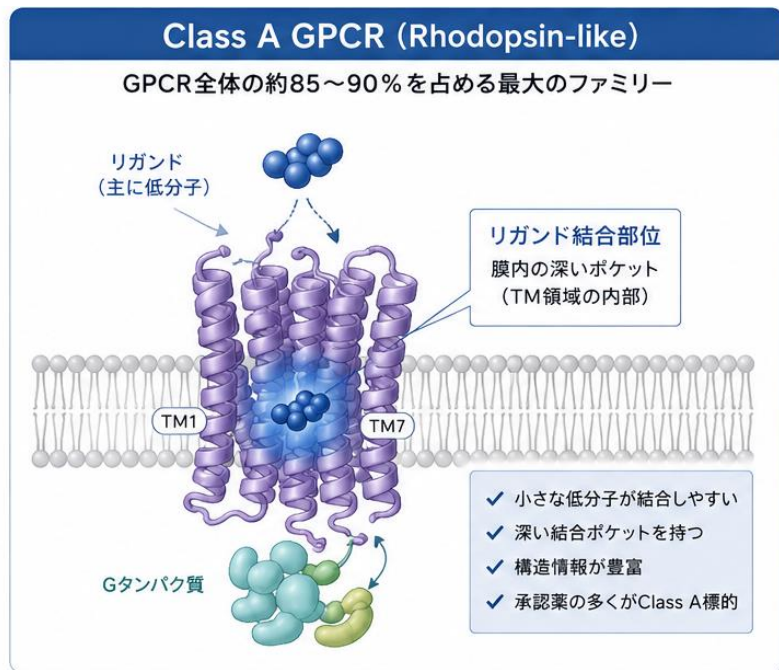
ヒット化合物を創出

- ATPとの非競合を確認
- キナーゼ阻害活性を確認
- 複数のCDKに対して選択性のあるヒットを創出

あらたな展開：GPCR Class B を標的とする低分子医薬品

Class Aは低分子医薬品が多いが、Class Bは困難とされてきた

Class Aは元々低分子が結合するポケット。Class Bはペプチドが結合するポケットで、主にペプチド医薬品が承認されている



項目	Class A GPCR	Class B GPCR
代表的な受容体	β_2 アドレナリン受容体、ドーパミンD ₂ 受容体、ヒスタミンH ₁ 受容体 など	GLP-1受容体、GLP-2受容体、GIP受容体、PTH1受容体、CRF受容体 など
構造の特徴	7回膜貫通 (7TM) のみ	大きな細胞外ドメイン (ECD) + 7回膜貫通 (7TM)
リガンドの種類	主に低分子 (内因性リガンドは小さなアミンやペプチドなど様々)	主に長鎖ペプチドホルモン (20～40アミノ酸程度)
リガンド結合部位	TM領域の深いポケット (膜内深部)	ECDとTM上部の両方 (二段階結合モデル)
創薬のしやすさ	比較的容易 (深いポケットに小分子が結合しやすい)	歴史的に難しい (ペプチド依存性が高く、ポケットが浅い)
承認薬の状況	多数 (GPCR承認薬の大部分がClass A標的)	限定的 (近年、小分子アゴニストの開発が進展)

まとめ： Class A は「深いポケットに小分子が結合する」タイプ、 Class B は「ペプチドがECDとTMにまたがって結合する」タイプ

Approved agonist drugs for class B GPCR

Only GLP-1R agonist (Orforglipron/Foundayo) launched as small molecule

Class B GPCR (total ca 15 family)	Modality of approved drugs			Small molecules in clinical study	Indication	MoA
	Antibody	Peptide	Small molecule			
GLP-1 receptor (GLP-1R)	0	14	1	6	Diabetes, obesity	Agonist
GIP receptor (GIPR)	0	1	0	0	Diabetes, obesity	Agonist
Glucagon receptor (GCGR)	0	3	0	1	Diabetes, obesity	Agonist
Amylin receptor (AMYP)	0	1	0	1	Diabetes, obesity	Agonist
Calcitonin receptor (CALCR)	0	2	0	1	Hypercalcemia, osteoarthritis, diabetes	Agonist
Growth hormone-releasing hormone receptor (GHRHR)	0	1	0	0	GH deficiency, cachexia	Agonist
PTH1 Receptor (PTH1R)	0	2	0	1	Osteoporosis, parathyroid disease	Agonist
GLP-2 receptor (GLP-2R)	0	1	0	0	Gastrointestinal drugs (IBD, SBS)	Agonist
Vasoactive intestinal polypeptide receptor 1 (VPAC1)	0	1	0	0	Antiarthritic, autoimmune	Agonist

Pipeline

Rich pipeline of innovative oral small molecules

Target	Indication	HTS	Hit ID	H2L	Lead Op	Clinical Dev	Partner
CBP/ β Catenin PPI	Cancer					Phase II	Eisai
CBP/ β Catenin PPI	Fibrosis					Phase II	OHARA
eIF4e/4EBP1 PPI	Cancer						
Undisclosed PPI	Fibrosis						
CDKa/Cyclin PPI	Cancer						
CDKb/Cyclin PPI	Cancer						
Type B GPCR-a	Obesity						
Type B GPCR-b	SBS (rare disease)						
Transporter PPI	Autoimmune						
Kinase PPI	Fibrosis						
Nuclear receptor PPI	Cancer						
CDKc/Cyclin PPI	Cancer						
Transcriptional factor PPI	Cancer						
Membrane protein PPI	Fibrosis						

PP I 創薬を加速する2つの戦略

ヒット創出 プログラム

年間10のHTSを実施

ヒット化合物を基に
共同研究を進める

創薬バイオテックと 共同開発

シナジーのある技術で新たな
標的とHitを創出

PP I 創薬に有効な技術
をPRISM中心に集約

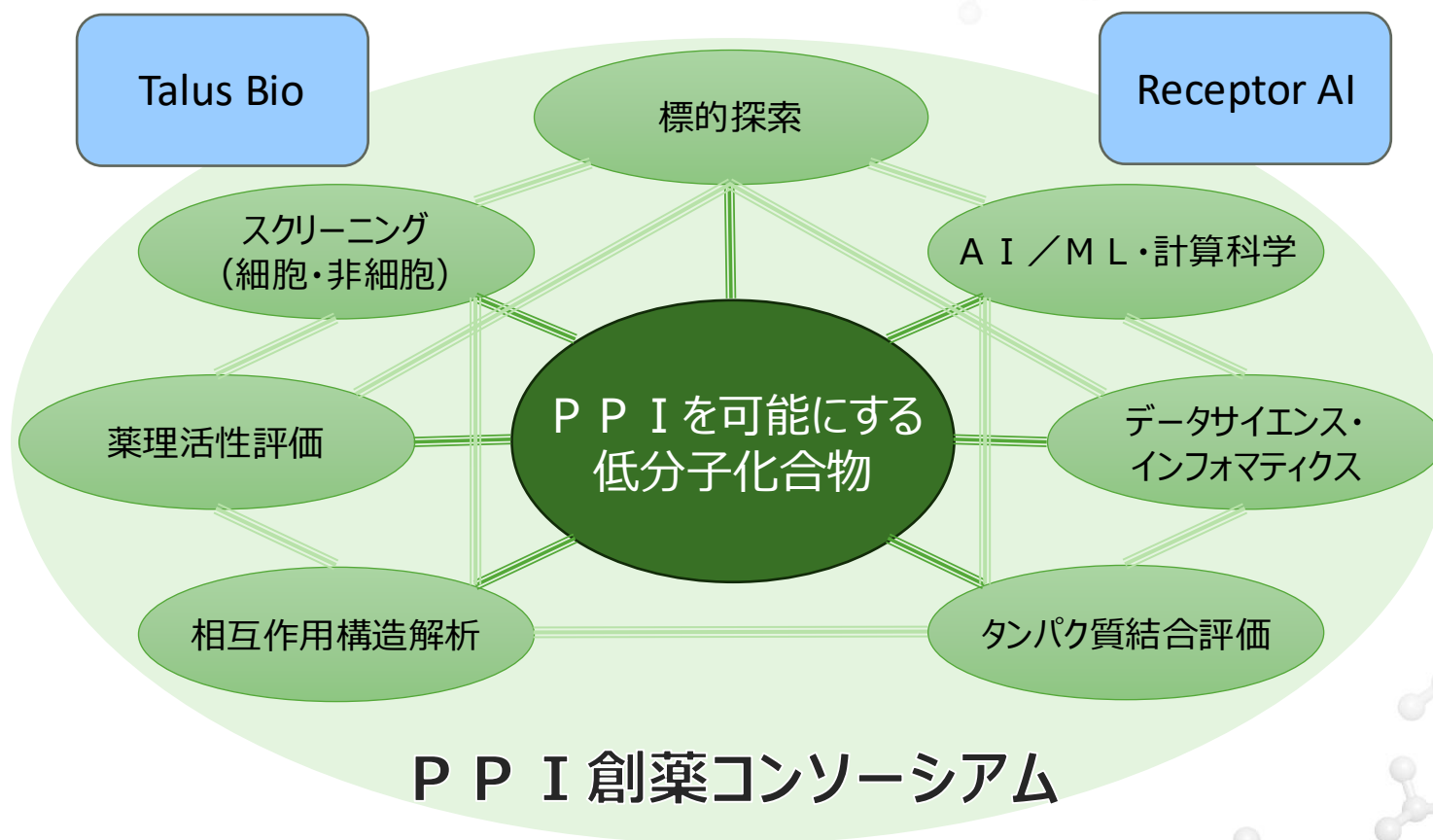
創薬バイオテックと共同開発

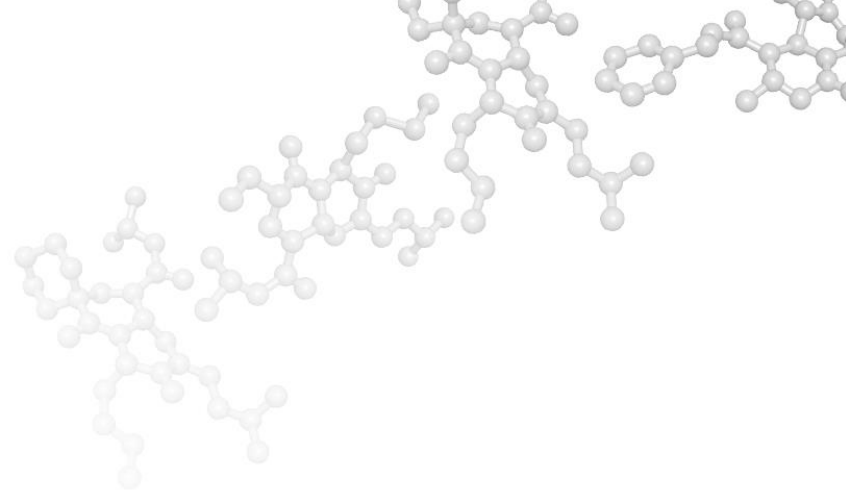
提携先	契約締結年月	提携内容	特徴	ポイント
 Talus Bio	2025年12月	転写因子および P P I 標的に 対する新規阻害剤の探索	プロテオミクスを基盤とし、転写 因子などの創薬困難な標的に 対する創薬を推進するバイオ ベンチャー	「どこを狙うか」 標的側に強み
 RECEPTOR.AI	2026年 3月	P P I 標的および膜タンパク質を 創薬標的の対象とした 新規低分子医薬品の探索 製薬企業との共同研究機会の 開拓	多目的AIナビゲーションエンジンを 活用し、低分子化合物の設計・ 最適化を行うテックバイオ企業	「どう作るか」 化合物設計に強み

PRISMのPepMetics®技術を活かした外部パートナーとの連携により、
標的選定から化合物設計までを統合した創薬基盤を構築

PP I 創薬コンソーシアム構想を始動

- ◎ PP I 創薬を促進する卓越した技術を持つベンチャーと連携
- ◎ 各社の技術を融合させ、PP I 創薬の飛躍的進展を目指す





ありがとうございました